

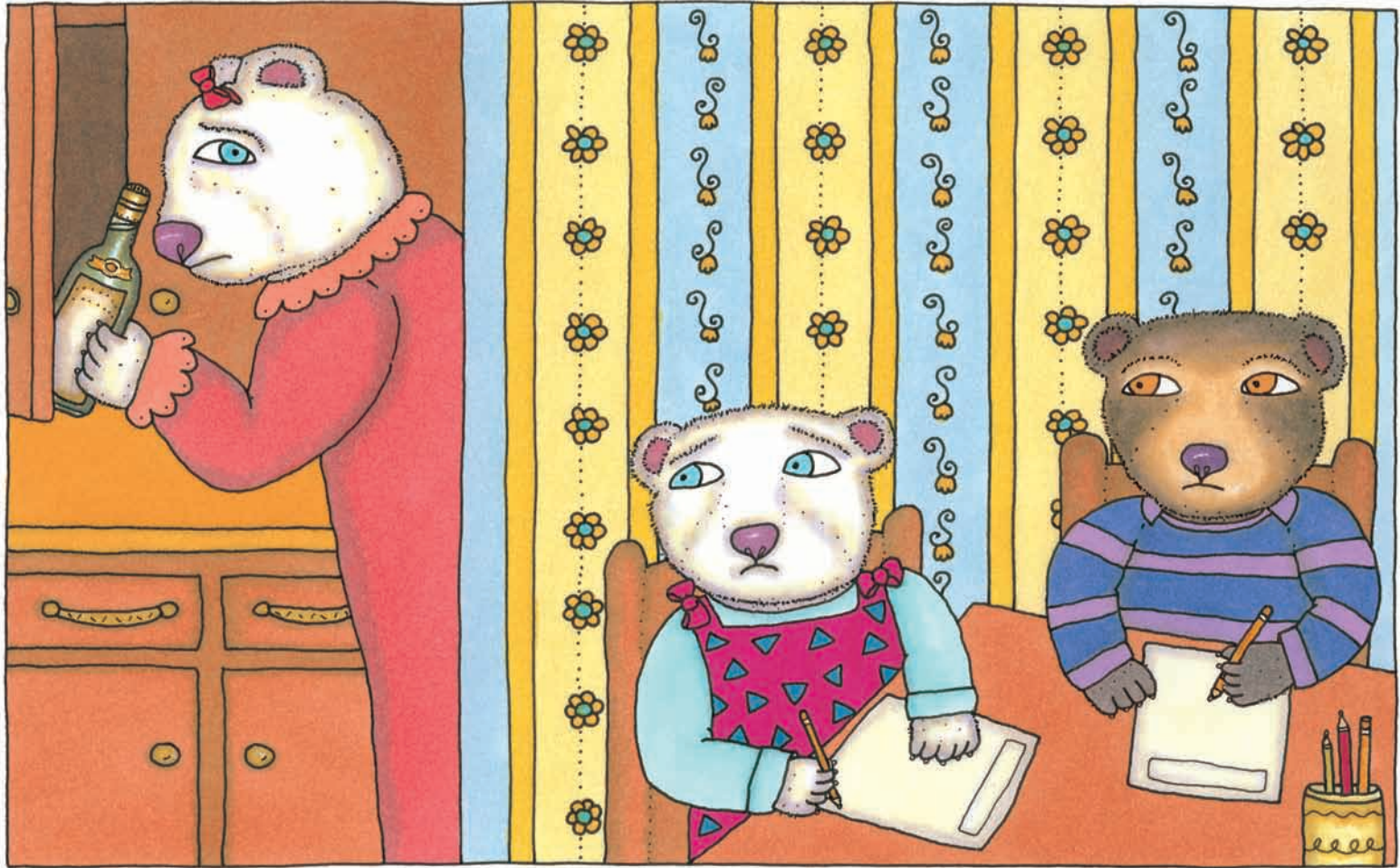
かぞくがのみすぎたら

リチャード・ラングセン さく ニコール・ルーベル え

いなみまりお、たにぐちまち かんしゅう ひさまつのりこ やく



かぞくがのみすぎたら



リチャード・ラングセン さく ニコール・ルーベル え

いなみまりお、たにぐちまち かんしゅう ひさまつのりこ やく

作者より

アルコール依存症^{いぞんしょう}の親を持つ子どもたちは、家庭内で起こるトラブルに責任を感じていることが多く、病気が原因でもめごとが起こるとは理解していません。子どもたちは、アルコール依存症^{いぞんしょう}という親の病気が自分のせいではないと知る必要があります。アルコール依存症^{いぞんしょう}の患者は病気だから酒を飲み続けるのであって、誰かが「悪い」ことをしてきたから飲むわけではありません。

この本は、家庭内のできごとから生じるつらい気持ちや、困った問題を抱えている子どもたちの助けとなるように作られました。アルコール依存症^{いぞんしょう}の親やきょうだいに対して、矛盾した多くの感情（愛情や心配に加えて、怒り、苦痛、寂しさ）を持つのは自分だけではなく、みんな同じであることを、子どもたちにわかってもらえればと思います。

トラブルのサインが子どもたちに見られる多くの場合、実際にその家庭には、問題が存在しています。苦しい状況にある子どもたちが自分の感情を口に出し、それまでの自分を振り返り、自ら助けを求めるための行動を起こすきっかけとして、この本が役立つことを望んでいます。助けが得られれば、子どもたちは自分に適した方法でアルコール依存症^{いぞんしょう}に対処することを学び、自分のうちにある強さに自信を持つことができるのです。

WHEN SOMEONE IN THE FAMILY DRINKS TOO MUCH

by Richard C. Langsen and Nicole Rubel

copyright © 1996 by Richard C Langsen

pictures copyright © 1996 by Nicole Rubel

Japanese translation published by arrangement with

Nicole Rubel through The English Agency (Japan) Ltd.





アルコール依存症い ぞん しょうってなんだろう

アルコール依存症い ぞん しょうの人は、おさけなしではいられない。ビールやワイン、ウィスキー、
アルコール入りののみものなら、なんだって、この病気びょうきのげんいんになってしまう。

アルコール^{いぞんしょう}依存症になると、おさけをやめられなくなる。

かぞくをくるしめても、



仕事をなくしても、



自分の^{じぶん}体を^{からだ}こわしても、



友達^{とも}だちをなくしても、おさけをのむ。



日本には、アルコール依存症のひとと、そうなりかけている人が294万人いる。

50人にひとりがこの病気。



けっこんしている人も、りこんした人もいる。



たいていの人は仕事をしているし、



子どもをそだてている人も
たくさんいる。



どんな人だって、アルコール^{いざんしやう}依存症になる。



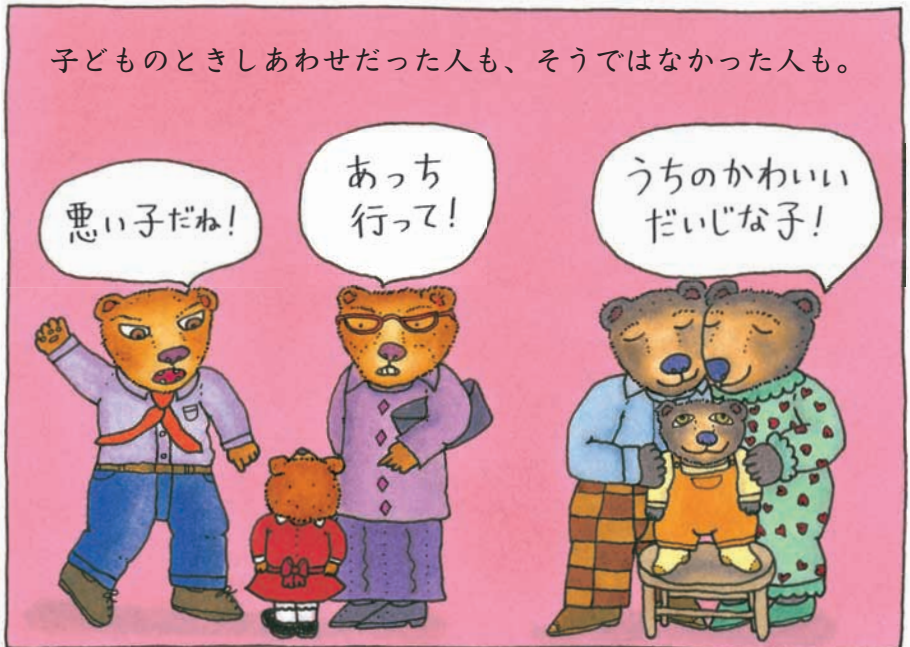
どこの^{くに}国の人でも、



わかい人も、としをとった人も



子ども^{こども}のときしあわせだった人も、そうではなかった人も。



せんもんかは、アルコール依存症は、心も体もきずつけると言っている。

なおすことはできないけれど、二度とおさをのまなければ、悪くなることもないんだよ。



おさをやめるのは、かんたんに思えるかもしれないね。でも、じつはひどくたいへん。

